

# 自分一人の力の限界

社会福祉学部社会福祉学科 2年 児島 恵太

活動先：NPO 法人 チャレンジド

クラス：岡 多枝子 先生

## 1. 志望動機

初めに私がなぜたくさんあるゼミの中から、サービスマーケティングのクラスを選択したのか説明したい。理由は2つある。一つ目は私自身の勘違いである。私は入学した時から将来は学校教師を目指していたので、ゼミ選択も教職課程のゼミに入らなければいけないと思っていたのである。実際、教職課程ゼミがあったのは昨年までの話で、今年は教員志望でもどのゼミにも入ってよかったのである。もうひとつの理由は、学外での活動に魅力を感じたからである。1年生の時は岡ゼミに所属して、フィールドワークを多く行ったことで机上の勉強にはない面白さを知り、サービスマーケティングを選択したのである。

## 2. 活動内容

活動先は美浜町にあるチャレンジドに決まった。チャレンジドでは障害のある子どもたちの日中一時支援や講師派遣を行っているNPOである。私たちは活動のテーマを、子どもたちと積極的に関わると学生企画の計画と実行の2つを設定した。打ち合わせを繰り返し日本福祉大学の7号館を使い、夏祭りウォークラリーを開催することに決まり、チョコバナナ、宝探し迷路、かき氷などを行うことに決定した。夏祭りウォークラリー後、自分たちで焼きそばを作り花火をするという計画になった。

## 3. 活動から得たもの

活動を振り返って一番に感じることは、自分たちでできることとの方が少ないということである。事前の打ち合わせをからそうだが、多くの人の協力があってこの夏祭りウォークラリーが成功したのである。タイムスケジュールを作るのに子どもたちの行動パターンを教えてもらい、この子はやるのが早くて飽きっぽいけどこの子は人の倍以上時間がかかってしまうなどアドバイスをもらいタイムスケジュールをたてることができた。実際は時間があまり、結果的にはあとの予定にある程度の余裕ができた。ウォークラリーの設置準備と片づけはボランティアの手伝いがなかったら、きっと時間内にできずに後のスケジュールの時間が一杯いっぱいになってしまっていたと思う。ボランティアの存在のありがたさを知ると同時に、人に指示を出すことのむずかしさを知ることでもできたのである。宝探し迷路を作っているときに、ボランティアの人たちが何もすることがない状態が多々あり、チャレンジドの子どもたちを迎えに行くときにボランティアの人たちに指示を出し忘れてチャレンジドの職員の方にフォローされる場面があった。自分たちが次に何をしなくてはいけないか、しっかり把握しておかなければ指示が出せなくてボランティアの人達だけだけではなく参加している人たちもどうしたらいいか困ってしまうということを痛感した。また、自分の心のどこかでチャレンジドの職員の方に分

からなくなったら頼ればいいという、甘えた感情があつてということもちゃんと反省したい。学生企画の中心には自分たちが居るという自覚をしっかりと持たなければいけなかった。学生企画を通して、自分一人の力ではできないことのほうが多いということに気づき、仲間との協力の大切さを改めて知ることができた。今まで私はこのように自分たちで企画を立てて運営していくことをしたことがなく、学園祭なども参加する側に回っていた。しかし、この学生企画を経験した事で、企画・運営することの楽しさを知ることができ同時に難しさを知ることができた。この経験は将来、教員になった時にきっと役に立ってくれると信じている。学生企画に加えちゃれっこクラブにも3日間参加した。ちゃれっこクラブでは3日間とも同じこと行動していたので、次第に今何をしたいかが少しわかったようになったのである。これは障害児だけでなく健常児にも言えることだと思うが、一緒に遊ぶ時は同じように楽しまなくてはいけないということに気付くところできた。職員の方を見ていると、本当に楽しそうに一緒に遊んでいた。その様子を見ていると遊んであげるのではなく、一緒に遊ぶという姿勢が大切であると気づかされた。チャレンジドの活動に参加して見えてきたことがある。社会資源の少なさであると障害児を扱うNPO団体の少なさである。ちゃれっこクラブで公園に遊び行くときはいつも半田市や武豊町、遠いと東海市まで車で移動している。美浜町にもっと公園などの施設があれば遠出しなくてすみ、子どもたちの負担も少なくなる。美浜町で障害児を扱うNPOはチャレンジドだけである。半田市にも少なく、利用している子の多くは半田市から通っている。またチャレンジドは半田市からの許可が下りた子供しか利用できないという現状である。チャレンジドのような施設が増えれば、障害児を持つ親御さんが自由に使える時間が増え、子育てにもゆとりができるはずである。1年間サービスラーニングの活動を通して、様々な体験をすることができた。自分だけではできないことが多いことを知り、仲間との協力の大切さを知った。これまで消極的だった私が、少し積極的に行動することができるようになったと思う。サービスラーニングにかかわってくれた人すべてに感謝したい。

#### 4. 先行研究

先行研究として、子どもの福祉とNPOのかかわりを紹介する。NPO法には第2条では17の活動分野に分類される。子供を対象にする子育てNPOは「保健・福祉」「社会教育」「文化・芸術」など多岐にわたる分野にまたがっている。子育てNPOの活動は国際的な視野での子育て支援、難民の子ども支援、外国人労働者の子ども支援など極めて広範囲に及んでいる。子育てNPOの発足について。日本では戦前・戦後を通して子育ての分野は文・厚・法と各省庁に分断されていた。このような分断が学童保育にも見られた。しかし1997年児童福祉法に改正により、自治体による支援施策と結び付き子育てNPOの数は拡大していった。

#### 参考文献

『新・子どもの世界と福祉』 竹中哲夫・垣内国光・増山均 ミネルヴァ書房 2004年